

開会あいさつ

埼玉県保健医療部 副部長 奥山 秀

皆様、こんにちは。

ただいま御紹介いただきました、埼玉県保健医療部副部長の奥山でございます。高いところから僭越ではございますが、開会に当たりまして一言御挨拶をさせていただきます。

本日、ここに「第9回埼玉輸血フォーラム」を開催しましたが、休日のお忙しいところにもかかわらず、このように多くの方の御参加いただき誠にありがとうございます。

また、このフォーラムの開催に向けて御尽力いただいた関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

本日御参加の皆様には、日頃から本県の保健医療行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、埼玉県の高齢化は全国で最も早いスピードで進んでおります。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者に移行する2025年には、121万人と2015年からの10年間で比較すると1.6倍に増加すると予想されています。

このような少子高齢社会を迎え、今後医療現場において、血液製剤の需要量の増大に供給が間に合わない状況になるのではないかと懸念されているところでございます。

そこで埼玉県といたしましては、血液製剤を長期かつ安定的に確保するため、日本赤十字社の協力のもと、若年層向けのキャンペーンや、400mL献血及び成分献血の推進など、献血者の確保に努めているところでございます。

中でも、教育委員会など関係機関と連携して、将来を担う高校生の献血の推進に力を入れています。その結果、平成28年度の本県の高校生献血者数は9,165人に上り、平成19年度から10年連続日本一の状況となっております。

これは今後も持続すべき、本県が全国に誇れる

記録であると知事も常々申しております。

このような取組もありまして、埼玉県では、昨年度225,922人の方に献血に御協力いただき、医療機関において必要な血液製剤を不足なく供給することができました。

これも、本日御参加の皆様方をはじめ医療従事者の方々の大変な御協力の賜物であると改めて深く感謝の意を表する次第です。

引き続き、増大する血液需要に応えるべく、御協力を賜りますようお願いいたします。

一方、安定的に血液製剤を確保するためには、医療機関の皆様による、更なる適正な血液製剤の使用に関する取組みが必要不可欠でございます。

今後とも731万県民が、必要な時に必要な医療が安心して受けられますよう、引き続き御支援、御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

埼玉県では、埼玉医科大学国際医療センターの池淵先生をはじめ、県内の医療従事者の方々に組織される埼玉県合同輸血療法委員会で、輸血用血液製剤の安全かつ適正使用について、先進的かつ具体的な御検討、御実践をいただいております。大変心強く思っております。

本日のフォーラムにおきましては、この委員会で行われました調査検討に関する御報告や教育に関する講演が予定されております。

このフォーラムを通じまして、県内の医療機関における輸血の安全対策がより一層推進され、血液製剤の適正使用が進むことを期待しているところでございます。

結びになりますが、埼玉県合同輸血療法委員会の益々の御発展と本日御参会の皆様方の御健勝を心から御祈念申し上げます。簡単ではございますが私の挨拶と代えさせていただきます。本日はお世話になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。